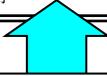


1 全体計画

学校の教育目標

学校の教育目標 「仲良くする子」を今年度の重点目標とし、知・徳・体のバランスのとれた教育活動を推進する。

- 仲良くする子
- 考える子
- 元気な子



令和年度学校経営方針

知・徳・体の調和の取れた人間性豊かな児童の育成を目指す。

- 仲良くする子 心豊かで思いやりをもち、互いに協力し合い、自他を尊重できる子
- 考える子 自ら課題をもち、自ら学び続け、正しく判断できる子
- 元気な子 心身ともに健康で、課題や困難に立ち向かい、強い意志をもって最後までやり遂げる子

※「上高田の大地とともに」、「学校は、地域とともに、子どものためにある」を学校経営の理念として掲げ、今年度末の学校再編を見据え、充実した教育活動を展開し、児童の自尊感情と愛校心を育み、地域に生きる人材の育成に努める。

本校の捉える「確かな学力」

- 各教科における基礎的・基本的な知識と技能
- 思考力、判断力、表現力及びコミュニケーション能力
- 自ら学び、問題解決しようとする力

教育の重点

- ①「分かる授業づくり」に向けた日々の授業の充実
- ②コミュニケーション能力の育成のための言語活動の充実
- ③生命・人権尊重の育成と自己肯定感・有用感の向上
- ④学習規律と生活習慣の確立と意欲的に学習・生活に取り組む態度
- ⑤校内研究等による個に応じた指導・支援の充実
- ⑥体力向上プログラムに基づく体育的活動の推進と健康づくり

令和元年度の指導の重点

<各教科>

- ・学びの連続性を重視し、学習評価に基づいたねらいを明確にした授業実践を行うことで指導と評価の一体化を図り、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。
- ・活用を図る学習活動を積極的に取り入れ、発達段階や個の実態に応じた指導の工夫を行うことで、「生きる力」の更なる向上を図り、児童の自ら学ぶ意欲や、課題を見出し、自ら創意工夫し、解決を図る能力を培う。
- ・特別に支援を要する児童において、個別指導計画に基づき、個に応じた適切な学習指導を行う。
- ・「習得→活用→探求」の授業展開を取り入れ、問題解決能力の解決を図る。また、プログラミング教育では企業出前授業を取り入れる。

<特別活動>

- ・集団活動の基礎基本を身に付け、自発的・自治的な活動を創り上げる意識と実践的態度を育てる。
- ・一人ひとりのよさや可能性を伸ばし、人間関係形成・社会参画・自己実現を図るとともに、互いのよさを認め合う場を設けることで、いじめの未然防止につなげる。

<総合的な学習の時間>

- ・「みつばちタイム」の名称で、人や地域とのかかわり・国際理解・福祉・環境の4つを柱として、主体的・創造的・協同的に活動に取り組む態度を育てるとともに、探究のプロセスを踏まえた単元を構成する。

<道徳>

- ・学校の教育活動全体を通して、生命尊重を基盤とした規範意識を高め、心豊かな児童の育成を図るとともに、道徳性を養う。
- ・道徳教育の全体計画に基づき、学校の教育活動全体を通して、道徳性を養い、思いやりの心、規範意識、正義感、伝統や文化の尊重、環境保全への貢献、公共精神の涵養、環境保全に貢献する態度、ボランティア精神等を養い、主体的に生き方を考える態度を育てるとともに、豊かな人間関係を育む。

<生活指導>

- ・思いやりの心・人権を尊重する態度を育成し、社会生活のルール・マナー及び学習や生活における規範意識を身に付けさせる。
- ・「あいさつ」「言葉遣い」「思いやりの心」を重点的に指導し、年2回の「さわやか旬間」を設定し実践的態度を養う。

<進路指導>

- ・社会の変化に主体的に対応するために、生涯を通じて学ぶ態度や能力の育成を図る。
- ・商店街の職業体験等を通して、生きがいや喜びを身近に感じさせることで、主体的に将来の進路を選択できるように支援する。

<p>指導内容・指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた繰り返し学習やノート指導を充実させ、東京ベーシックドリルを活用し基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。 ・算数科では3～6年生での少数指導による習熟度別学習を展開し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、個に応じたきめ細かな指導体制を確立する。 ・全学年が英語活動に親しむ活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を高める。 	<p>教育課程編成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余剰時を活用し、各教科で定着が不足している内容の反復、補充、基礎的な学力の定着を図る。 ・補充学習や朝活動の時間を活用し、言語感覚を養ったり、計算力の向上を図ったりする。 	<p>評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準、評価計画に基づき、自己・相互評価、教師による評価を行い、個々の児童への助言や個に応じた支援を適切に行う。 ・児童、保護者による評価、土曜公開や行事等でアンケートを実施し、授業改善に生かす。 	<p>校内研究・研修の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の研究主題を「通常の学級における特別支援教育」とし、児童自身が個に応じて課題意識をもって学習に取り組みながら、既習事項の定着を図る指導を充実させる。 ・全教員が研究・研修・OJTにかかわることを通して、指導技術の向上を図る。 	<p>家庭・地域との連携の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会、個人面談を通して情報共有をし、児童の健全育成を図る。 ・家庭の一員としての仕事の分担をし、自立と共生を家庭で身につける。 ・地域の施設や人材の有効活用を図る。
--	---	--	--	---

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

〔算数科の基礎的・基本的な知識・技能の着実な定着のための活用を第一とする〕

- 算数少数指導では、習熟の程度に課題のある学習集団を担当する。第3～6学年の月・火・木・金の授業を担当し、個に応じたきめ細かい指導を行う。
- 算数少数指導では、教務主任・学年主任・少数担当教員等と十分な連携を図って指導にあたる。
- 火曜日8時30分～8時45分を実施する「算数チャレンジ」では、全7学級を巡回して、必要に応じて個別対応を行う。
- 火曜日・木曜日・金曜日に実施する放課後学習教室「ぐんぐん」では、東京ベーシックドリル等を活用して、個に応じたきめ細かい指導を行う。
- 長期休業期間中に5日間実施する補充学習で指導にあたる。

A L Tの活用の工夫

〔移行措置に則り、示された内容や時間数を着実に指導するために活用する〕

- 3～6年の外国語活動を通して、英語で児童とコミュニケーションをとり、外国の文化や伝統の紹介を行う。
- 1・2年では余剰の時間を活用して、年間5時間程度の授業をA L Tとして担当する。児童に英語でのコミュニケーションを体験させ、英語活動の楽しさを味わわせる。
- 日本と異なるA L Tの母国の生活や習慣を紹介することにより、多様なものの見方や考え方に気付かせる。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- 音読や視写を通して言葉の感覚を養い、語彙を増やすこと。
- 表記のしかたや漢字の知識を正しく習得し、各学年の発達段階に応じた文章を読んだり、書いたりすること
- 相手意識をもって話したり、聞いたりすること。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
		指導上の課題	改善案
1年	<p>分析内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと」は、話題に沿って、丁寧な言葉を使って話すことができるようになってきている。声の大きさが十分でない児童も数名見られる。 ・「聞くこと」は、興味をもって聞こうとしたり、感想を伝えたりすることができてきた。一方、集中が続かず、大事なことを落とさずに聞くことが難しい児童がいる。 ・「書くこと」は、言葉集めや言葉遊びを随時行い、書くことに意欲的になった。文については短文や3文で書くことから始めている。自分で書き進める児童がいる一方、書くことを個別に聞きながら対応する児童もいる。 ・「読むこと」について、音読は意欲的に取り組み、リズムよく読めていたり、自分なりに工夫して読んだりできるようになってきた。そ 	<ul style="list-style-type: none"> ・何が必要な事柄か理解できない、必要な事柄が思い出せない。 ・集中力が続かない。 ・題材に必要な事柄を集められない。語と語のつながりがわからない。書字のアウトプットに時間がかかる。 ・すらすら読める児童や、一文字ずつ読む児童など学力差がある。語彙が少ない。問題の意味が捉えられない。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・他の児童の話聞いて模倣したり、話型を示したりすることで習得できるようにする。話す話題を先に伝え、必要な事柄を覚えておけるよう支援する。丁寧語が使えるようその都度言い直すようにする。 ・聞いた後に復唱する、感想を言う、質問をするなど「聞く」ことへの必然性をもたせる。短い指示、文にする等1度に聞く内容を限定する。 ・写真やイラスト等を例示したり、友達の作品を参考にしたり、必要な事柄がつかめるようにする。五十音の表を持たせて確認できるようにする。書きたいと思う場を設定し、書く機会を多くする。 ・読むときは、指で文を追わせたり読む一文以外を隠したりなどの工夫をする。MIMを活用し、語彙を増やす。テストやプリントなどで、問題文を一文字ずつ読ませ、問題の意味を

	<p>の一方辿り読みで語のまとまりが掴めない児童もいる。読解はまだ慣れていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語事項のうち、ひらがなの清音の読み書きは概ね習得している。また、特殊音節や助詞については、正しく表記することができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊音節の表記や助詞の使い方が習得途中である。 	<p>読み取ることができるように練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MIMを活用し、特殊音節の習得を図る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む能力」と「言語事項」については、区・全国平均を上回る結果となった。 ・「話す・聞く能力」と「書く力」については平均値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く能力」については、大事なことを落とさずに聞き取る児童も増えてきたが、話題に沿った質問を考えることに課題がある。 ・「書く能力」については、題材を選び取れない、書きたいことはあるが、語と語・文と文のつながりを考えて書くことが難しい児童が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校朝会の話聞き取って書いたり、それを話題に話をしたりするなど、日常場面でも「話す・聞く」を意識して指導する。 ・題材を選びやすいよう、例示したり、友達の作品を紹介したり、必要な事柄をつかみ、書き出せるようにする。 ・課題のある児童には文型を提示し、語と語・文と文のつながりを確かめながら書けるようにする。
3年	<p>中野区学力調査の結果を見ると、「書く能力」と「言語における知識・理解・技能」は、区平均を上回っていた。しかし、「話す聞く能力」と「読む能力」は、下回っている。このことから、丁寧なものが読む習慣を身に付けさせたり、日頃から聞くことに意識して学習に取り組むことが課題。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の読み取りの際、主人公の気持ちなどを読み取ったり、行動を考えたりすることに対して、話の前後関係を考え取り組む児童が少ない。 ・説明文の読み取りの際、文の筋道を考えて、筆者の意図を読み取ることのできる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の日や朝読書の時間などに、落ち着いて本を読む習慣を身に付けさせていく。また、「おすすめの本」カードを活用し、読む能力を培う。 ・物語文だけでなく、科学的読み物・新聞などいろいろな形式の文を読む機会を増やし、説明文に対する苦手意識をなくしていく。
4年	<p>中野区学力調査の結果を見ると、「話す・聞く能力」は、区平均を上回り、「言語事項」は、ほぼ平均であった。しかし、「書く能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取りの際、主人公の気持ちなどを読み取ったり、考えたりすることに対して早合点して取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の日や朝読書の時間などに、落ち着いて本を読む習慣を身に付けさせていく。また、「おすすめの本」カードを活用し、読む能力を培う。

	力」・「読む能力」は、下回っている。このことから、丁寧に読む習慣を身に着けさせたり、日頃から書くことに対して意識して取り組めるようにさせていったりすることが大切だと捉えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要事項を正しくノートに書いたり、自分の考えを書き込んだりする作業が苦手な児童が多い。 ・「書く」ことに対して苦手意識を持っている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にノートをチェックし、上手に書けている児童のノートを見たり聞いたりして上達を図る。 ・一言日記や、ニュースタイム。新聞などいろいろな形式で、簡単な文を書き、書くことに対する苦手意識をなくしていく。
5年	中野区学力調査の観点別正答率の結果から、話す・聞く能力、書く能力、言語についての知識・理解・技能の項目において、課題があることがわかった。このことから、基本的な言語についての知識を身に着け、日頃から書くことに対して意識して取り組めるようにさせていくことが大切だと捉えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読みや書きなどの学習内容が定着していなかったり、言葉の意味を理解できていなかったりする児童が多い。 ・必要事項を正しくノートに書いたり、自分の考えを書き込んだりする作業が苦手な児童が多い。 ・「書く」ことに対して苦手意識を持っている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し漢字練習を行ったり、定期的に漢字ミニテストを行ったりすることにより漢字の定着を図る。 ・音読を通して、言葉の意味や漢字の読み方などを学ばせてく。 ・定期的にノートをチェックし、上手に書けている児童のノートを見たり聞いたりして上達を図る。 ・一言日記や、ニュースタイム。新聞などいろいろな形式で、簡単な文を書き、書くことに対する苦手意識をなくしていく
6年	達成率においては、どの観点も70%を超えたが、区平均・全国平均と比べたときに、「話す、聞く能力」が両者を下回った。	学級集団の特徴として、「聞いて理解する」力の弱さが挙げられる。学習指導や説明の場面で、教師が口頭で話すだけでは伝わりきらないことが多い。	学習内容や作業手順などを説明する際、視覚的に捉えやすい補助教材や資料などを併用する。また、口頭で説明されたことを適切にメモやノートに記述しておく技能も身に付けさせたい。

(2) 社会科

社会科の重点

- 地図記号、八方位、都道府県の名称と位置、世界の主な国の名称と位置など基本的な知識の定着を図る。
- 社会的事象を観察、調査する際に、資料を正しく読み取る力をつけるとともに、調べたことや考えたことを表現する力を育成する。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を見て、方角やどのような施設があるか、理解することが難しい。 ・学校の周りの地形や土地の使われ方、交通の様子など、調べたことを的確に表現する力が育った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図記号や八方位の読み取りに不慣れで、地図を見て土地の使われ方等の特徴を表せるようになることが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・白地図や地図を利用して、社会的事象の特色を捉える活動を繰り返し行う。 ・日常的に東西南北の方位を意識して活動する場面を取り入れ、繰り返し行う。 ・学習課題と見学・調査の視点を明確にし、見学・調査にあたり、その結果や資料を活用しまとめを行い、学習内容を深める。
4年	<p>社会的事象に興味関心をもち、学習のまとめとして、新聞などに自分なりに工夫してまとめることが少しずつできるようになっている。また、出前授業などを行うことにより、理解をより深めることができている。一方、気づきや考えをノートに表わすことができず、資料の読み取りや知識理解が不十分な児童も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から自分の考えや気づきを新聞やノートに表わすことができない児童が多い。 ・知識理解が不十分な児童がいる。 ・調べる活動において、調べたことをもとに気づきやわかったことなど新聞に表すことができない児童が2割ほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にノートをチェックし、上手に書けている児童のノートを見たり聞いたりして上達を図る。 ・出前授業や実際に調べるなどの体験学習を行うことにより、理解を深める。 ・新聞などにまとめる手順を分かりやすくまとめ、自分から進んで調べることができるようにする。また、調べる際に、インターネットや本などの資料を活用できるように準備をしておく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の食料生産について興味や関心を高め、学習することができた。しかし、理解したことやわかったことをわかりやすく表現することに苦労する児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識理解はあるが、複数の資料から事象を読み取るのが難しい児童がいる。 ・都道府県の位置や我が国の地形について理解がまだ不十分な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にノートをチェックし、上手に書けている児童のノートを見たり聞いたりして上達を図る。 ・いくつかの資料かを提示し、そこからの気づきを大切に取り上げ、多角的な事象のとらえを大切に授業展開を行う。

			<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取り組みから、我が国の地形や都道府県の位置や特色について理解を深められるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・達成率においては、どの観点も 70%を超えたが、領域別に見ると、「農業や水産業」は区・都平均に今一步届かなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年時の社会科学習の取り組みについて、児童の関心・意欲が全体的に低い傾向にあった。より自分達の身近な事項として捉えさせる必要があったことや、様々な産業に携わる人々に共感できる授業展開が不十分だったと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学習の中で、人物にクローズアップして時代の様子をつかませる授業や、生活に身近な問題として政治・国際理解に関する学習に向き合える授業づくりを心がける。また、5年時に不十分だった領域について、振り返って学習内容の定着を図る機会をつくる。

(3) 算数科

算数科の重点

- 基礎・基本定着のために、復習を適宜用いた指導上の工夫をする。
- 課題解決型学習の中で、考えを言語化する場を多く設け、思考力の向上につなげる。
- ユニバーサルデザインに基づいた指導を行い、児童の実態に合わせた合理的配慮の提供を通して、理解の早い児童も遅い児童も同じように力をつける。
- 東京ベーシックドリル等を活用し、「ぐんぐんタイム」や個別指導を通して、基礎・基本の定着を図る。
- 数量や図形の学習に関しては、その知識や特徴を日常的に復習し、理解の定着を図る。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
		指導上の課題	改善案
1 年	分析内容		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10までの数についての数の数え方、数字の読み方、書き方などについては定着が図れている。8や9、0の正しい書き方の習熟が図れていない児童が数名いる。 ・ 数図やブロックなどから10までの数の多少や大小を比較することはできてきている。 ・ 5から10の合成や分解について、概ね理解している。 ・ 繰り上がりや繰り下がりのない足し算、引き算は、正しく計算できるようになってきた。ブロックや指を使用して計算している児童も数名いる。引き算のほうが間違いが多い。また、計算にかかる時間に個人差がある。 ・ 足し算、引き算の計算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集中力が持続しない。 ・ ブロック操作に夢中になってしまう。 ・ 合成の見方より分解の見方に時間がかかる。数をまとまりとしてみる事ができていない。 ・ 数えたりや数えひきをしてしまったり、数をまとまりとしてとらえられていない。 ・ 文章を読み取る力が不十 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノートや黒板に書かせる際に、数字の書き方を確認し、正しい書き方で書けるようにする。 ・ ブロックは自分で考える時だけに操作をする約束や必要な教具以外はしまわせ、ブロックを並べる位置等を明確に指示し、基本的な学習環境づくりをする。 ・ ブロックやおはじき等の具体物の操作を十分に行うようにする。 ・ 数をまとまりでとらえて計算できるように、ブロックでの操作を十分に行い、10までの数の合成、分解は念頭で言えるように習熟を図る。 ・ 足し算や引き算の文章の問題

	<p>の意味理解は個人差がとても大きい。問題文の読み取りが不十分であり立式が正確でなかったり、問題に正対していなかったりする。特に求差の問題でつまづく児童が多かった。</p>	<p>分なため、まったく違う解答をしてしまったり、答えの数字が先に式に入ってしまったたりしている。また、どちらがどれだけ多いか等の求差の問題では、正しく答えを書くことができない。</p>	<p>は、わかっていることや聞いていることに線を引かせて、問題の意味をよく理解させるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式を見て、問題のお話づくりをする活動を通し、「あわせて」「のこりは」「どちらが」「どれだけ多い」などの言葉にも注目させ、式の意味を十分理解させる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」の観点について、区・全国平均を上回る結果だった。 ・「数量や図形についての知識・理解」の観点について、区平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の解決について話し合ったり、一つの問題に対して様々な考え方を交流したりする活動も取り入れているが、自分の考えをもてない児童や他者の考えを聞いて理解するのが難しい児童もまだ多い。 ・図形については、経験不足の実態が見られる。(左右が身につけていないなど。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の仕方や数の仕組みなど、自分の考えをノートに書く際には、既習との違いを明確にし、既習と関連付けて考えられるようにする。発表の際は分かっている部分を少しずつ児童にリレーして発表させることで、集中して話を聞けるように工夫し、理解を促す。 ・できるだけ体験を取り入れるなど、実態に即した授業展開を実践する。 ・演算練習やプリント学習などを多く実施している。
3年	<p>中野区学力調査の結果を見ると、全体的に区平均を上回っている。問題の正答率で見ると、「時こくと時間」「はこの形」の数値が低めである。このことより、図形の基礎的知識の定着と時計の読み方の定着を図りたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の仕方が定着していない児童が見られる。 ・既習事項が定着していない児童がいる。 ・図形・時刻における性質の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算九九のプリント学習やドリルを繰り返し行う。 ・まとめや復習の時間を設け、プリントなどにおいて知識と理解の定着を図る。
4年	<p>中野区学力調査の結果を見ると、「話す・聞く能力」は、区平均を上回り、「言語事項」は、ほぼ平均であった。しかし、「書く能力」「読む能力」は、下回っている。このことから、丁寧に読む習慣を身につけさせたり、日頃か</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取りの際、主人公の気持ちなどを読み取ったり、考えたりすることに対して早合点して取り組む児童が多い。 ・必要事項を正しくノートに書いたり、自分の考えを書き込んだりする作業が苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の時間や朝読書の時間などに、落ち着いて本を読む習慣を身につけさせていく。また、「おすすめの本」カードを活用し、読む能力を培う。 ・定期的にノートをチェックし、上手に書けている児童のノートを見たり聞いたりして上達を図る。

	<p>ら書くことに対して意識して取り組めるようにさせていったりすることが大切だと捉えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」ことに対して苦手意識を持っている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一言日記や、ニュースタイム。新聞などいろいろな形式で、簡単な文を書き、書くことに対する苦手意識をなくしていく。
5年	<p>中野区学力調査の観点別正答率の結果から、数学的な考え方、数量や図形についての知識・理解の項目において、課題があることがわかった。このことより、図形の基礎的知識の定着や、四則計算の定着を図ることと共に、筋道立てて考える力をつける必要性を感じた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の仕方が定着していない児童が多い。 ・自分から進んで解こうとする児童がいる反面、わからないと初めから解く気力がない児童がいる。 ・既習事項が定着していない児童がいる。 ・自分の考えをもち工夫して取り組むことに意欲がもてない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算のプリント学習やドリルを繰り返し行う。 ・毎時間、ノートに式や答え以外に自分の考えをかく場所を設け、筋道立てて考える学習に重点を置く。 ・まとめや復習の時間を設け、プリントなどにおいて知識の定着を図る。
6年	<p>全領域において、区・都平均を上回り、達成率も70%を上回った。しかし、個別に見ると基礎的な学習内容が定着していない児童が3割ほどおり、新しい学習内容が積み上がっていかない現実がある。</p>	<p>教科における学力の差が大きくなり、「できる」「できない」の二極化が顕著であるため、「できない」児童の意欲が低下しがちである。</p>	<p>習熟度別少人数指導では、各単元開始前にレディネステストを実施し、単元導入前の基本事項が定着していない児童には少数制で丁寧な指導を行う。また、定期的に既習事項を振り返り定着を見直す機会を取る。重ねて、毎週木曜日に実施する「算数チャレンジ」の時間に、四則計算の基礎学力の底上げを図る。</p>

習熟度別少人数指導の充実及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

- ・算数少人数クラスで児童への個別対応を行う。
- ・放課後補習教室「ぐんぐん」での児童への指導を担当する。

(4) 理科

理科の重点

- 観察・実験する際に、実験方法や結果の予想をすることで活動に見通しをもち、調べたことや考えたことを筋道立て、表現する力を育成することで、科学的な見方や考え方を養う。
- 児童の興味や関心をひく生活上の問題や教材に即して、児童が主体的・活動的に学習を進め、問題解決をしていくことで実感を伴った理解を図る。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ・植物、生物の観察では、観察結果をどのように表現するのか戸惑う児童が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が適切に観察結果を表現できるようになることが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の際は、視点を具体的に伝え、表現がしやすくなるよう指導を行う。 ・理科用語を定着させ、表現がしやすくなるよう指導を行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に興味関心をも、取り組んでいる児童が多い。 ・季節の生き物や植物について、図鑑やインターネットなどを使って調べることにより、興味をもち進めることができた。 ・理科の用語が十分に定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習において、何を調べて、どのように書いたらいいのかが分からず、自分から進めることができない児童がいる。 ・理科の用語が十分に定着していないので表現の仕方がわからない児童が3割ほどいる。 ・実験をする際、予想を立て、根拠がなんなのか自分の考えをもつことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習のために、インターネットや図鑑を見る時間を十分に取り、進められるようにするとともに、学習の流れを掲示して進めやすくする。 ・理解を深めるため、実物を使ったり、代替え教材を使ったりする。 ・理科の用語については、プリントなどで繰り返し行う。 ・実験の際のノート指導では、「実験内容」「予想」「結果」を書くことを基本とし、「予想」では、理由も書くよう指導する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・生物単元に対する興味関心は高い。 ・理科の用語が十分に定着していない。 ・正確に実験に取り組む児童とそうでない児童との差が大きい。 ・都の学力調査の結果から、全ての観点において都の平均を下回り、課題があることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説や結果のまとめ等を論理的に記述することができないことから、学力としての定着につながらず、仮説やまとめの時間をしっかり設定することが必要である。 ・理科の用語が十分に定着していないので、発言や発表につながらないことがあり、用語の的確な理解を 	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習のために、インターネットや図鑑を見る時間を十分に取り、進められるようにするとともに、学習の流れを掲示して進めやすくする。 理解を深めるため、実物を使ったり、代替え教材を使ったりする。 理科の用語については、プリントなどで繰り返し行う。 実験の際のノート指導では、

	<p>特に、知識・理解では、都の平均より10ポイント低く、学習したことが定着できていないことがわかった。</p>	<p>定着させることが重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験をする際、予想を立て、根拠がなんなのか自分の考えをもつことができない児童がいる。 	<p>「実験内容」「予想」「結果」を書くことを基本とし、「予想」では、理由も書くようにし、実験の一連の流れとその意味について理解を深めさせる。</p>
6年	<p>達成率においては、どの観点も70%を超えたが、内容別に見ると、「人の誕生」や「ふりこのきまり」は区・都平均に今一步届かなかった。</p>	<p>自然事象について、追及問題をしっかりと把握し、自ら予想を立て、その検証方法を考えて実践し、結論を得るという学習のサイクルを、どの児童にも確実に達成させたい。</p>	<p>自分で考える時間、グループや学級全体で意見を出し合う時間の区別を明確にし、自分でしっかりと問題に向き合う時間を大切にする。また、正しい自然法則を導けるよう、実験方法の手順や行い方を確実に伝えられるよう、説明を聞く際にルールを守ることを徹底する。</p>

(5) 生活科

生活科の重点

- 個々の気付きの質を高めるため、気付きに共感する姿勢で児童に向き合い支援する。
- 体験的な活動の中で、気付きの幅を広げるため、お互いの気付きを伝え合い交流する場を確保する。
- 地域や保護者の方と関わる機会をもち、様々な人と触れ合えるようにする。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・「わくわくどきどきしょうがっこう」の学校探検では、2年生のリードで校内を回り、いろいろな教室があることに気付くことができた。1年だけでの探検で主事先生などのかかわりを大切にすることで、その後の挨拶につながっている。 ・「きれいにさいてね わたしのはな」では、あさがおを育てることによって、成長の変化に気づき、継続して世話をすることができた。 ・春運動会ということもあり、公園探検や昆虫採集の時間を確保できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路における危険箇所や安全を守ってくれる人々への気づきが少なかった。 ・朝顔の観察カードをかくときに経験の違いもあり、力の差が大きく時間差が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導ともかかわるが、校外学習の際などに、危険箇所やお世話になっている人に意識が向くように指導する。 ・2年生とのかかわりを通年でもつ。また、地域に出かけたり、地域・保護者の方を招いたり、話を聞く・発表するなどの活動を通して、様々な人とふれあえるようにする。 ・観察する視点を明確にして、支援する。かく時間も十分に確保する。友達のかいたカードのよいところを共有することでかき方を学べるようにする。 ・公園探検は、年間計画を見直し、秋以降取り入れる。

2
年

- ・学校探検や名刺交換会では、1年生に丁寧に優しく教えることができ、自分の成長を実感することができた。
- ・「目指せ野菜名人」では、野菜の成長を観察し、手入れをして、収穫の喜びを味わうことができた。
- ・「まちが大すきたんけんたい」では、自分の住んでいる町にあるお店や施設に目を向けながら、五感を使った発見をすることができた。

- ・活動が断片的になり、関心・意欲が持続せず、児童の思いや願いをもとに学習を展開できないことがあった。
- ・1年生との関わりや、個人的に地域の人との関わりをもつ機会があったが、学年全体としての身近な人々との関わりはもてなかった。
- ・気づきを共有し、気づきの質を高める手立てが足りなかった。



- ・単元全体の見直しをもたせ、常時、活動を促す声かけ、働きかけをすることで、必然性のある学習活動を行う。
- ・1年生との関わりを年度当初だけでなく、通年で関わりがもてるようにする。また、地域・保護者の方を招いたりして、話を聞く・発表するなどの活動を通して、あいさつや会話、お礼の手紙を書くなど、様々な人とふれあえるようにする。
- ・気付いたことを発表する場を設け、気づきの共有を図る。

(6) 音楽科

音楽科の重点

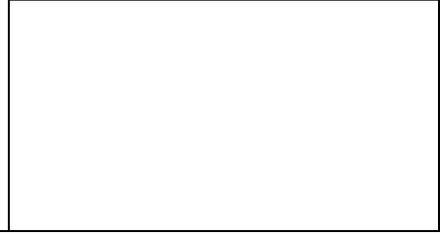
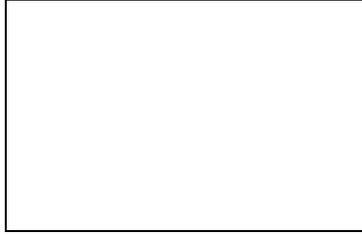
- 自分や友達の音を聴いて合わせる気持ちや、自分の力のできるようにする力を育てる。
- ペアやグループでの学び合い活動を通して、児童同士での学習のコミュニケーションを深められるようにする。
- 思いや意図をもって表現や鑑賞の学習活動に取り組めるようにする。
- ゲストティーチャーや地域の人材を生かし、生の音楽に触れることで音楽を愛好する心情を育て、自身の学習活動への意欲の向上、実践へとつなげていく。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	リズムに気を付けて歌ったり、曲想（速度による曲の感じの違い）を感じ取りながら歌ったりすることができている。また、即興的に自分でリズムをつくって表現をすることを継続して指導したことにより表現力を高めることができた。一方器楽の学習においては、能力に個人差があり、スムーズに演奏できる児童と、音を追うのがやっという児童で分かれてしまう。	音を出すことから音楽へとつなげていけるようにしていく必要がある。音と音楽の違いを明確にし、音楽としてとらえる姿勢を育成していく必要がある。	様々な音の出し方を試したり、音楽で求められている表現を身体表現から探してみたりして、音から音楽へとつなげていくようにする。また、児童の想像力を働かせられるような発問をして、表現へとつなげやすくできるようにする。
2年	声を合わせて歌う、音を合わせて演奏する、ということ自体は積極的に取り組み、音に反応したり音楽の雰囲気を感じとったりしながら表現することはできている。しかし、自分たちが演奏しないところ（前奏、間奏、後奏など）で音を出さないというルールが徹底しきれていない。	自分の出している声や楽器の音色を大切にすることはもちろん、友達の音もよく聴き、互いに音を合わせるということを学習の中で気づき、生かしていくことが課題である。また、音を出さない時間も音楽では必要なことを受け入れられていないことも課題である。	グループに分かれて、聴き合う学習活動を取り入れるようにする。そのことにより、音楽を客観的に捉えることができ、自分の音はもちろん、友達と音を合わせることの大切さや、音を出すとき、出さない時の重要性を感じ取れるようにする。

3年	音楽に対する意欲は特に歌唱において強い。器楽学習においては、新しくリコーダーが導入され、積極的に取り組む姿勢はあるが、指の操作についての能力に個人差が大きい。また、思うように音が出せないことで苦手意識をもつ児童もいる。	歌いたいという意欲をさらに高めるために、様々な表現の工夫に取り組んでいるが、なぜその表現が必要なのかを理解していないところがある。器楽については、習得する技能をなるべく細かなステップで取り組めるようにしていく必要がある。	教師の発問を表現の工夫につながる内容で、かつ、児童が捉えやすい内容であるようにする。器楽については、スモールステップを大切に、簡単な指づかいでも曲らしさを感じられる教材を使用したり、限定された音を使った音楽づくりなどに関連させたりして、楽しみながら技能を習得できるように工夫する。
4年	歌唱学習は積極的に取り組んでいる。歌う意欲は高いが、学習を深めること、響きのある声で歌っていくことについてもう少し関心を持たせることが課題である。器楽においては全体で音を合わせることができるようになってきた。音を出すだけでなく、聴くということに焦点を当てるのが課題である。	歌いたいという意欲と学習する上で必要な表現が結びつかないところがある。器楽においては、表現を深めるというところまで至れていないことが課題である。	歌っていることを十分に認めながら、よりよい表現に結びつける内容を指導するようにする。器楽については曲想というところに常に着目させ、技能だけでなく表現も大切であることを継続して指導する。
5年	個人個人では歌唱においても器楽においても楽しんで取り組むことができる。しかし、全体の音のバランスを考えたり、曲想を理解したりして全体で合わせることににおいては意欲が乏しく、課題である。	音を聴き合って合わせるということが歌唱・器楽において共通の課題である。自分の音と周りの音が合わさると意識をもてるようにしていく必要がある。	音が合っていることを実感させるために、聴く人と演奏する人に分かれて学習したり、録音や録画をして客観的に自分たちを演奏をとらえたりする機会を設けるようにする。
6年	音楽の仕組みを理解し、和声の変化を感じ取りながら歌唱や器楽の表現に取り組むことができた。また、友達と学び合う活動の機会を増やしたことで、互いの音を聴き合って学習に取り組むこともできた。このような学習形態を継続して取り入	友達同士で学習する際に教師から言われたことだけをやるのではなく、自分たちで意見を交換したり、より学習を深めるための思考力や対話力をもたせたりすることが課題である。	2人で行う学習で互いの音楽について意見を交換し合える環境からスタートし、思考力や対話力を養えるようにする。そこから発展させ、グループで活動できるようにし、そこでの思考力や対話力の充実につながるようにする。

れ、自主的な学習へつな
げていくことが課題であ
る。



(7) 図画工作科

図画工作科の重点

- 「作品の発表、鑑賞」「話し合い」「よく考えること」などの活動を通して、一人ひとりがもつ創造性や表現力を伸ばし、育てる。
- 作品を見て交流したり、アドバイスをしあったりする場を設定し、自分や友だちの個性や良さを認め合い、お互いを高め合える人間関係をつくる。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・造形活動に意欲的だが、作品の質を高めようとする意識が低いことが課題である。	・題材をすぐ終わらせようとする。	・参考作品などで丁寧な作品の見本を見せ、目標を高くもたせる。
2年	・造形活動に意欲的な児童が多いが、手先の使い方など技能面での個人差が大きい。理解しないまま進めてしまう。	・材料や道具を使いこなせていない。 ・理解しないまま作り、失敗してしまう。	・班ごとの技能の高さを揃え、お互いを見合えるようにする。 ・聞く際の姿勢を徹底するとともに、不安があれば質問するように指導する。
3年	・全体的に落ち着いているが、技能面や進捗に個人差がある。	・できあがる作品が小さくまとまる事が多い。 ・作るのが極端に遅い児童がいる。	・参考作品や制作途中で広がりのある作品や元気な作品を紹介してその良さを感じさせる。 ・班ごとの技能の高さを揃えお互いに見合えるようにする。
4年	・造形活動に意欲的だが、基礎的な技能の定着を図る必要がある。	・用具や材料を扱う際、同じ課題でも児童ごとに完成度が異なってしまう。	・用具や材料の適切な使い方の指導を徹底し、用具の扱いなどの経験を積ませていく。 ・できた事はよく褒める。
5年	・造形活動に意欲的だが、計画的に作ることが苦手な児童が多い。題材から逸れてしまう事もある。	・期限までに作品を完成できない児童がいる。 ・題材から逸れた作品を作ってしまう。	・授業ごとの進捗目標を確認し、間に合わない場合は休み時間等に仕上げさせ進度を揃える。 ・題材のめあてを確認する。
6年	・落ち着いており、じっくり課題に取り組む児童が多いが、作り始めるまでに時間が掛かる児童もいる。	・計画を立てられず、授業中何もできなかつたり、期限までに作品を完成できない児童がいる。	・完成図を描かせる。 ・参考作品等で見本を見せ、イメージを思い描きやすいようにする。

(8) 家庭科

家庭科の重点

- 経験を増やすため、作業や実技の学習方法を見直し、より実践的な活動にする。
- 得た技能や知識が生活にいかせることを実感させるよう、家庭での実践の機会を設ける。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・実習、体験的な学習により、児童の関心意欲を高めることができたが、理解度は個人の生活経験によるところが大きい。 ・食生活に関する学習では、生活経験によるところが大きい故に、実習や体験を増やすことを通して食育にもつなげていく必要がある。 ・衣服の学習では、意欲は高いが、簡単な裁縫の技術が身に付いていない児童がいるので、個に応じた指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験の個人差が大きい。 ・食に対する意識が低く、調理を経験することで栄養のとり方や調理の工夫について意識を高める必要がある。 ・技能として「できること」を増やすだけでなく、方法や仕組みについて正しく理解させることで、技能の定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等の児童の活動時間を多く設定し、体験することで、生活経験による個人差を小さくしていく。 ・学習内容を生活と結びつけて考えさせ、技能を高めるだけでなく、理解も深めていけるようにする。 ・学校で学習したことを実生活でも実践するよう促す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活から課題を見つけることは、よくできるが、それを改善する方法を考え、実践しようとする態度、能力は、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習が、そのときだけの楽しい体験に終わってしまい、家庭生活に生かそうとする態度の定着が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単に知識だけを入れるのではなく、体験やその活動と意味付けを理解させ、必要感を実感させる。具体的な例を挙げ、生活の中でどうすべきか考えられるようにする。

(9) 体育科

体育科の重点

- 技能や経験の差が小さい低学年から、様々な運動遊びを通して体を動かす経験を増やす。
- 技能に差があっても高い意欲で運動できるように、技能に応じた場を設定したり、ルールを工夫したりする。
- 運動の経験を増やしたり持久力をつけたりするために、体力向上月間には全校で実効性のある活動を行うとともに、日ごろからの外遊びを励行する。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・整列や前へならえなど、集団行動が素早くできている。 ・マット遊びでは、経験の差もあり、手を使って体を支持する運動に差が見られた。また、「転がる」動きでは、ほとんどの児童が前転がりをする事ができていたが、手の平をしっかりマットにつけて回転することが難しい児童もいた。 ・水遊びでは、プールの使い方やきまりを守り、安全に活動することができた。しかし、今年度は天候の関係で1回しか入れておらず、水に慣れ親しむ時間を確保できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動に取りかかるのが遅かったり、指示通りに行動できなかったりする。 ・手で体を支持したり、ゆりかごの転がる基本の感覚を身に付けたりすることについて、経験の差が大きく、体をうまく使えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整列ゲームなどを取り入れ、取り掛かりの遅い児童も、意欲的に素早く並べるよう工夫する。 ・手で支持する動きは、跳び箱遊び等にもつながったり、転倒時に自分の体を守ったりする際にも重要な動きなので、授業序盤の体づくりの運動に取り入れていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は初めてなので着替えなどに時間がかかった。 ・水に顔をつけることが苦手な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早く着替えは始めるようにして授業が定刻の時間に始められるよう注意する。 ・水泳指導の後半は泳力別に分けて個別指導を行う時間を確保する。 ・夏休み明け、天候を見ながらプールに入る時間を確保し、水に入ることを楽しむ活動からスモールステップ化して水に慣れさせていく。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・固定遊具や鉄棒、ボール運動など経験による差が大きい。全体的に運動遊びの経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・固定施設に触れる機会が少ない。 ・元気に外遊びに出かけるが、決まった遊びになりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再編工事で固定施設に触れる機会を確保できない部分があるので、ねらいを意識し、代替りとなる運動を取り入れるようにする。

		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体の動かし方の経験が少なく、技能の上達につながらない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で様々な集団での遊びを教え、休み時間など遊べるようにする。 ・楽しく、安全にゲームなどするために自分たちでルールを工夫する授業をする。 ・コーディネーション運動を取り入れたり、目指す動きに必要な要素を細分化して練習したりすることで、技能の上達につなげる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対する意欲は高い児童が多い。 ・技能の個人差が大きい。 ・勝敗を伴う運動において、トラブルになることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能に個人差があり、そのため学習意欲が低くなり、運動を楽しめなくなる児童がいる。個人に合った運動領域における技能を高めることを通して、運動への楽しみ方を実感させる指導が課題。 ・勝敗を伴う運動では、チームで話し合いの時間を設け、励まし合いながら活動に取り組むことができる指導が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・單元ごとに、必要な技能を高めるために、学習の流れを定着させ、自分から進んで取り組めるようにしていく。 ・自分のめあてを明確にして、めあてに向けた運動に取り組ませる。 ・勝敗を伴う運動において、チームで協力しながら練習し、得意な児童と苦手な児童で互いに工夫し合いながら、協力して楽しむ場を設定する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・体育学習に対する意欲は高い。特に陸上競技系やゲーム系の領域で意欲が高い。 ・休み時間などにおいても、体を動かして遊ぶことを好む児童が多いが、中には、体を動かすことを好まない児童もいる。 ・勝敗を伴う競技では、結果などにおいてトラブルになることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域においても運動技能の差が大きく、その運動を十分に楽しむための技能を高めることが課題となる。 ・勝敗を伴う運動において、結果を受け入れる態度が十分に育まれておらず、トラブルになる場合もある。 ・協力することの良さが分からない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・單元ごとに、必要な技能を高める活動を帯で取り、継続的に取り組む時間を設ける。 ・個人差があることを自覚させ、カードを使って、自分の目当てに向かって取り組ませるようにする。 ・勝敗を伴う運動において、チーム練習や話し合い活動を取り入れながら、協力していくことの楽しさを味合わせる。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する意欲は高い。特にゲーム、走・跳の運動の領域で意欲が高い。 ・得意な児童と苦手な児童の差が大きい。 ・男女によって好む運動が違ふ。 ・勝敗を伴う運動においてトラブルが出ることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域においても運動技能の差が大きく、その運動を十分に楽しむための技能を高めることを通して、関心意欲の個人差を小さくすることが大切である。 ・勝敗を伴う運動において、チームで協力していくことの意味が分からず責め合ってしまうことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに、必要な技能を高めるために、学習の流れを定着させ、自分から進んで取り組めるようにしていく。 ・個人のめあてを明確にもち、目標をもって取り組めるよう学習過程の工夫が重要である。 ・勝敗を伴う運動において、チームで協力しながら練習をし、得意な児童が苦手な児童に教えるなど工夫してできるようにしていき、協力していくことの楽しさを味合わせる。
6年	<p>運動技能の高い女子児童が多く、特に陸上運動や水泳領域でその傾向が顕著である。一方、男子児童においては、特定の領域において技能の高い児童が半数ほどおり、総合的に技能の低い児童が半数ほどいる。学級集団としては、学習規律やマナーを守れる児童が多い一方、勝つために頑張るといような積極性に欠ける傾向がある。</p>	<p>技能差が大きいため、集団としてのスポーツを楽しむめなかつたり、運動の本質的な楽しさを味わえていないために、全力で運動しなかつたりする事例が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がもっている力で楽しめる教材を選び、ルールや行い方をしっかりと理解させて取り組むようにする。 ・各領域において、「楽しさ」の質に触れられる学習過程、学習課題を与え、全力で取り組むことの楽しさ、爽快さについて繰り返し呼び掛ける。